

メールの再利用を促進する システムの検討

平成24年 2月17日

岡山大学 工学部 情報工学科

木村 有祐

研究背景

<オフィスにおける仕事>

- (1) メールに作業情報が含まれる
- (2) 過去のメールがよく再利用される

どのように再利用されたかは作業者の記憶にしか残らない

<本研究の目的>

再利用履歴を「**再利用情報**」としてシステムで扱う

➡ 仕事の想起, メールの再利用の手間を軽減

現状調査

(1) メールに作業情報は含まれているか？

(2) メールに再利用性はあるか？

例：研修会のとりまとめ

<調査結果>

(1) メールと引継ぎ資料の
作業情報は同等

(2) 作業の25%はメールのみから抽出

➡ メールに作業情報が多く含まれる

(3) 幹事から参加者へのメールの7割
が再利用されたメール

➡ メールの再利用が多く行われる

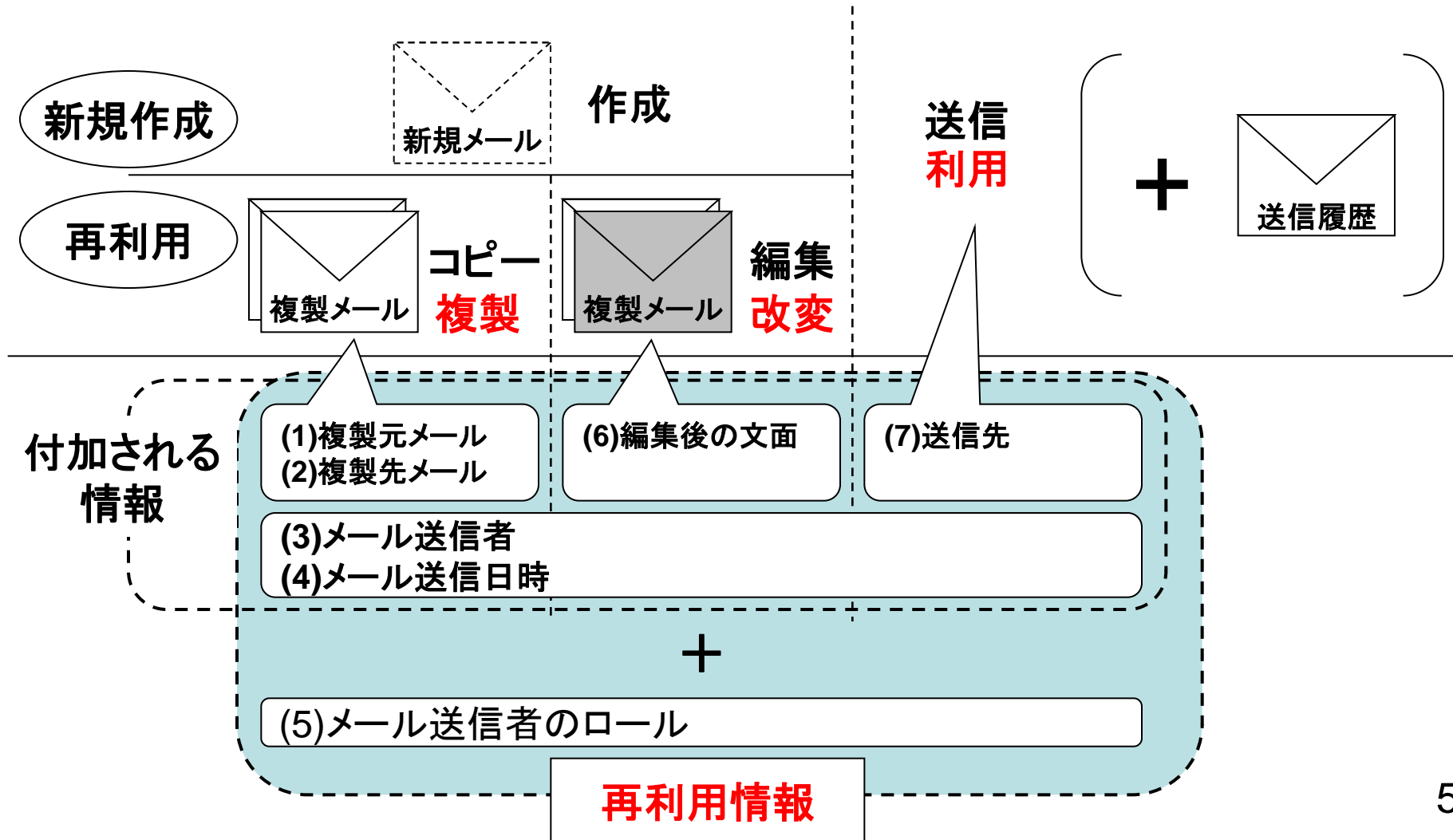
抽出元	作業件数
メールのみ	22
引継ぎ資料のみ	26
メールと引継ぎ資料 両方	21
抽出不可	18
合計	87

課題

- (1) 再利用情報の定義
- (2) メールに再利用情報を付加する手間の軽減
- (3) 再利用情報を利用したシステムの設計

再利用情報

再利用の段階ごとに存在する情報とロールを
「**再利用情報**」とする



再利用情報付加の手間軽減

再利用動作時に自動で再利用情報を付加

➡ 「再利用」操作を用意し明示的にユーザに行わせることで、
再利用を促進

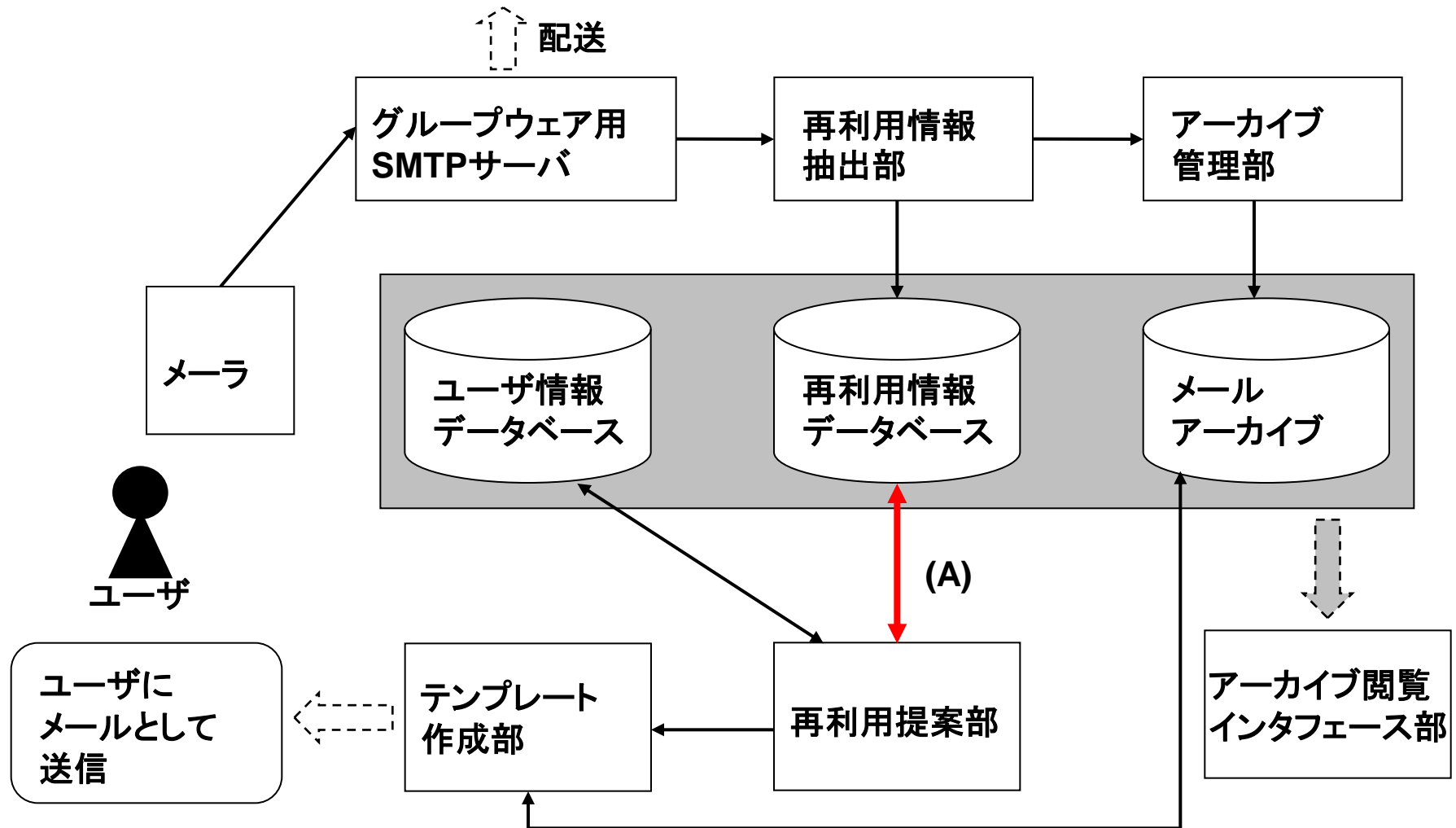
<再利用を促進する機能>

- (1) メール再利用の提案
- (2) メール作成支援
- (3) 仕事で送信するメールをタイムラインで提示
- (4) 再利用操作の用意

➡ 上記機能を有するシステムを設計

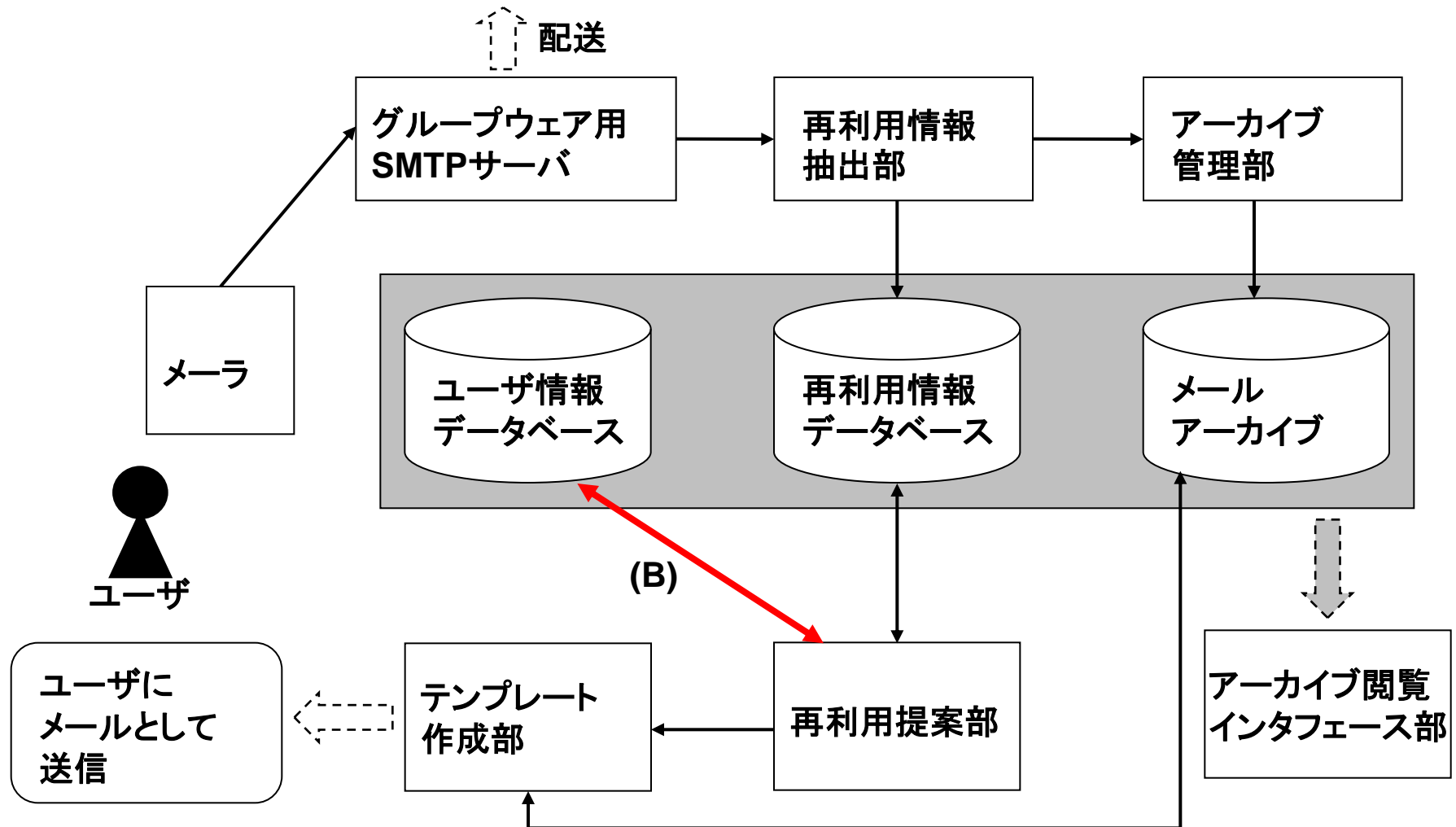
システムの設計

(1) メール再利用の提案



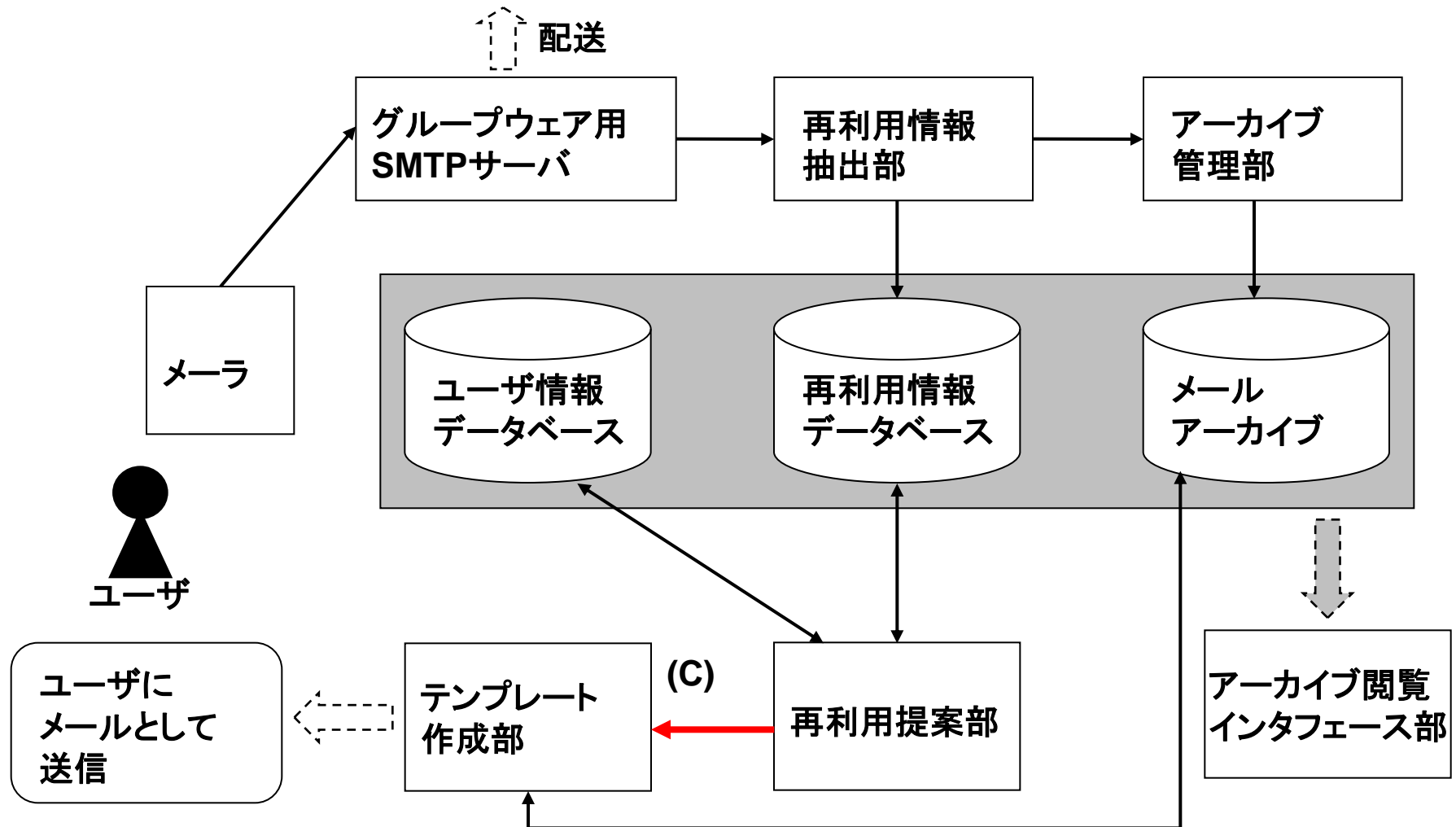
システムの設計

(1) メール再利用の提案



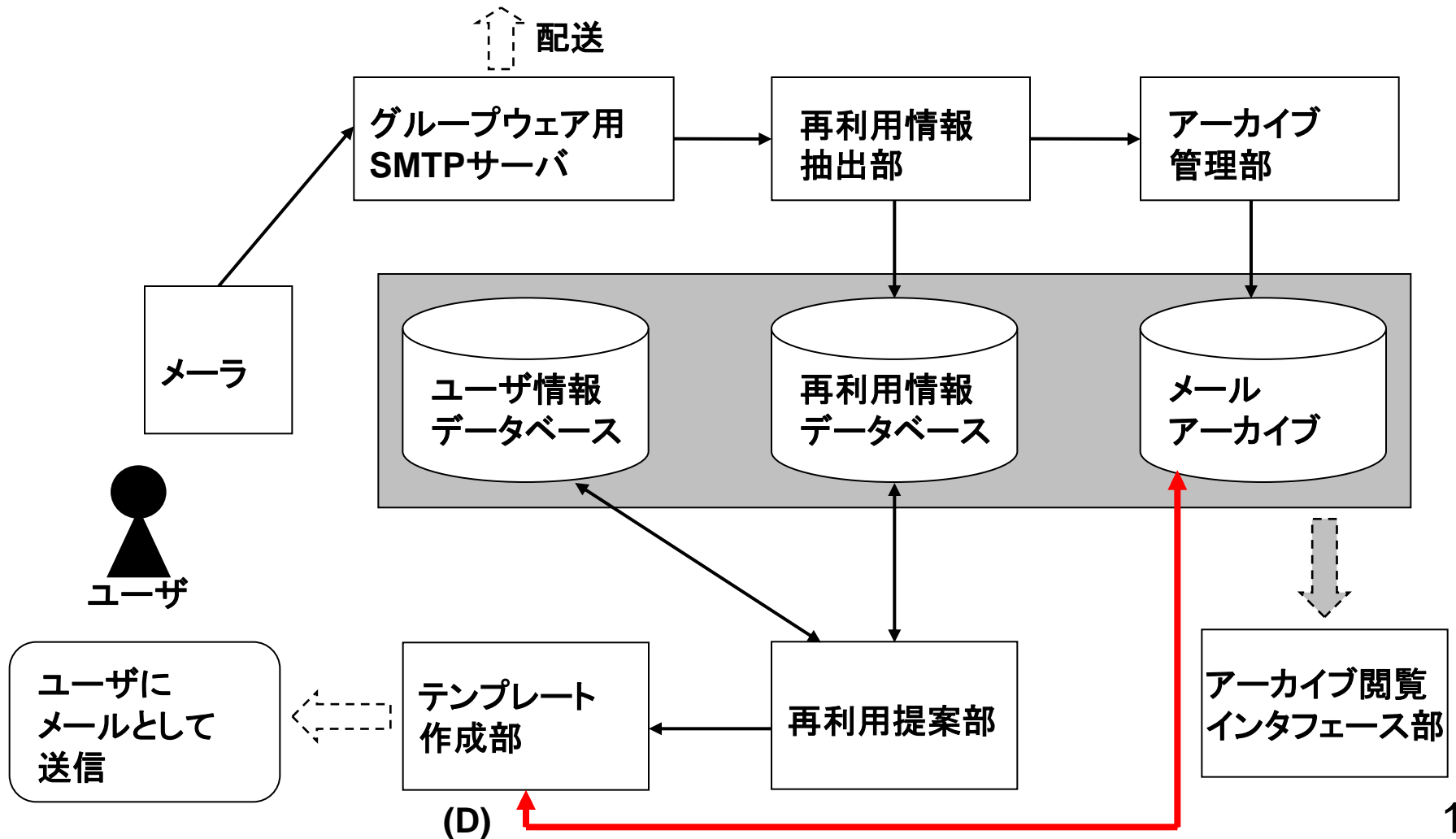
システムの設計

(1) メール再利用の提案



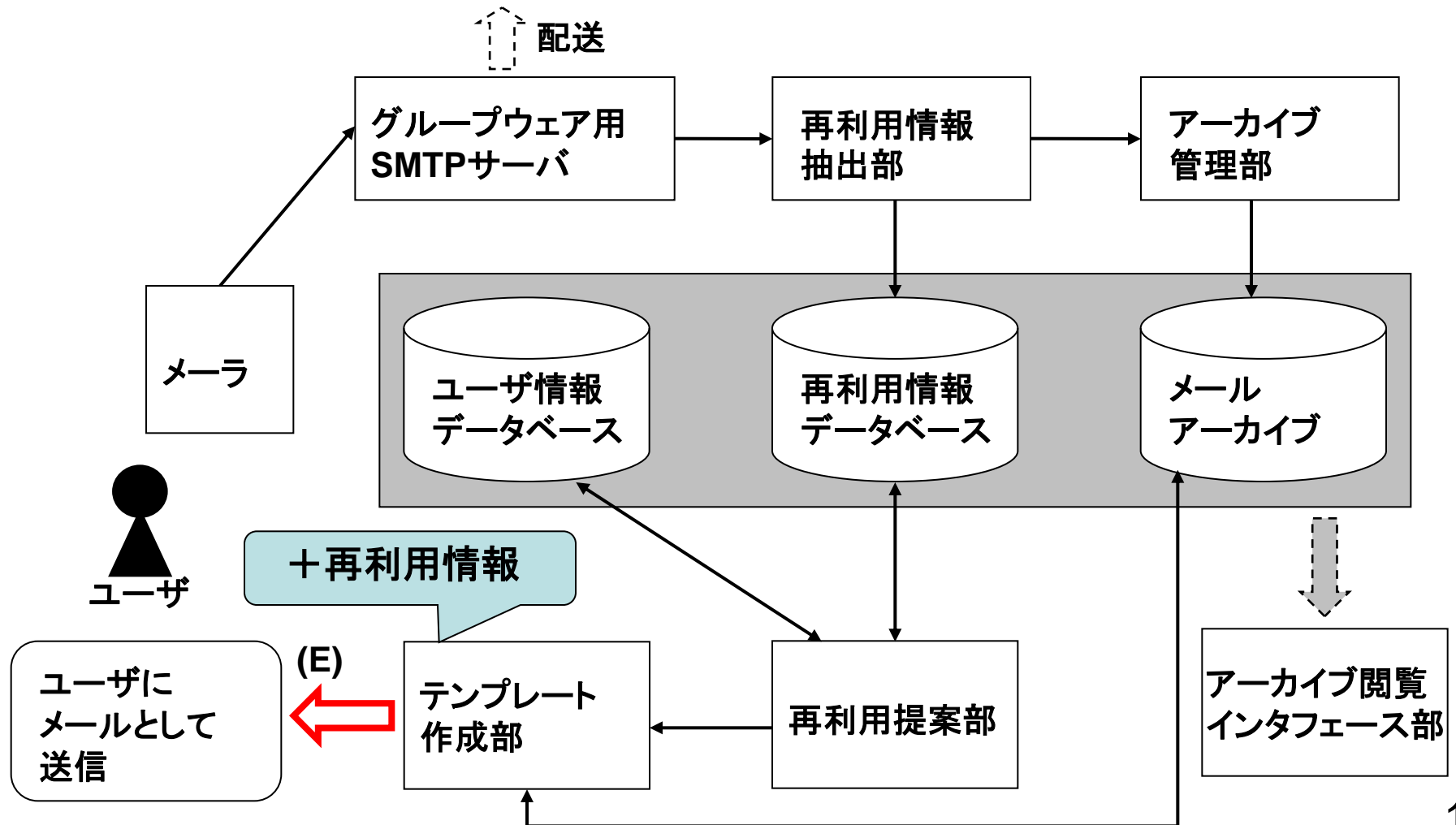
システムの設計

(1) メール再利用の提案



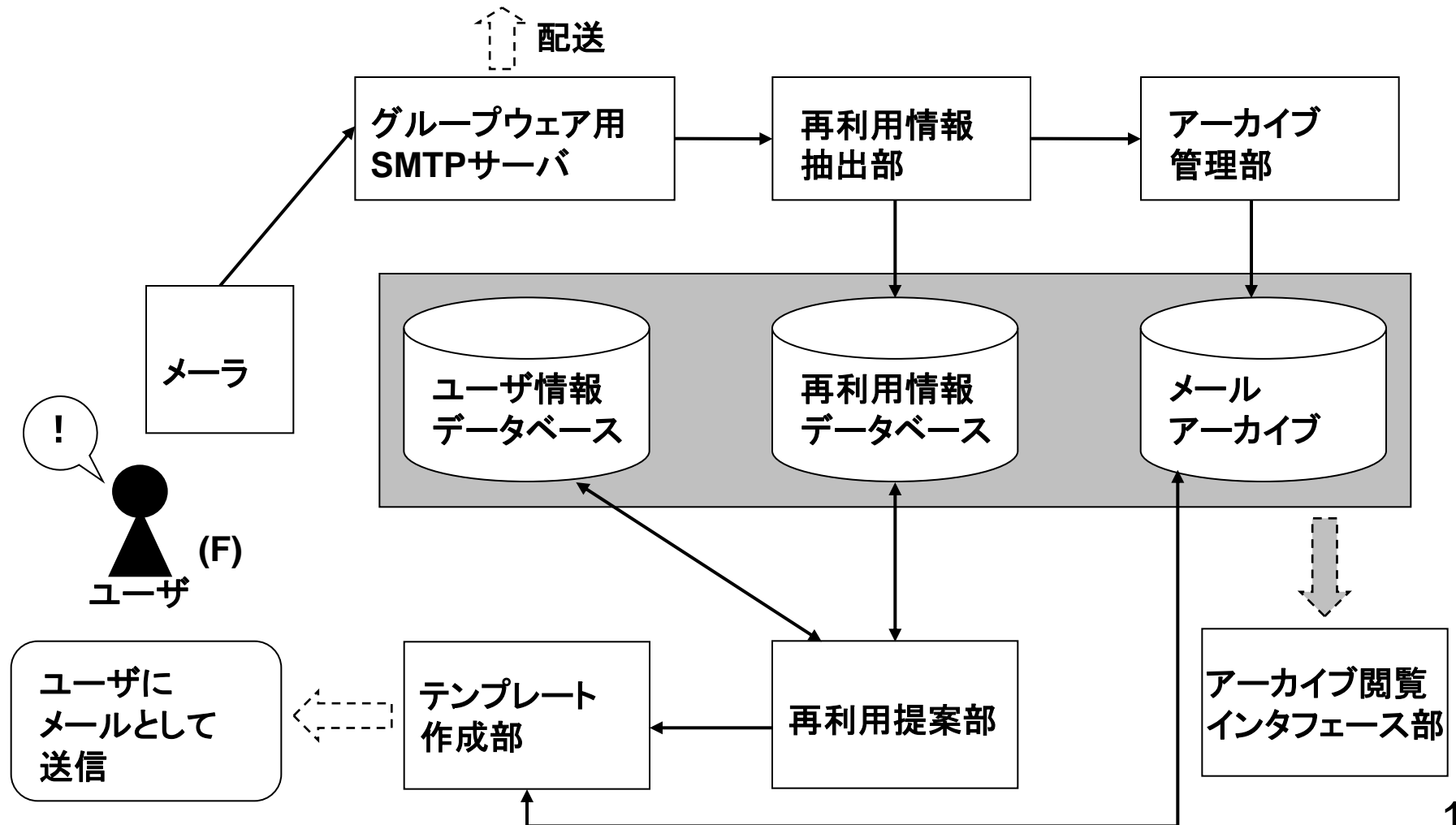
システムの設計

(1) メール再利用の提案



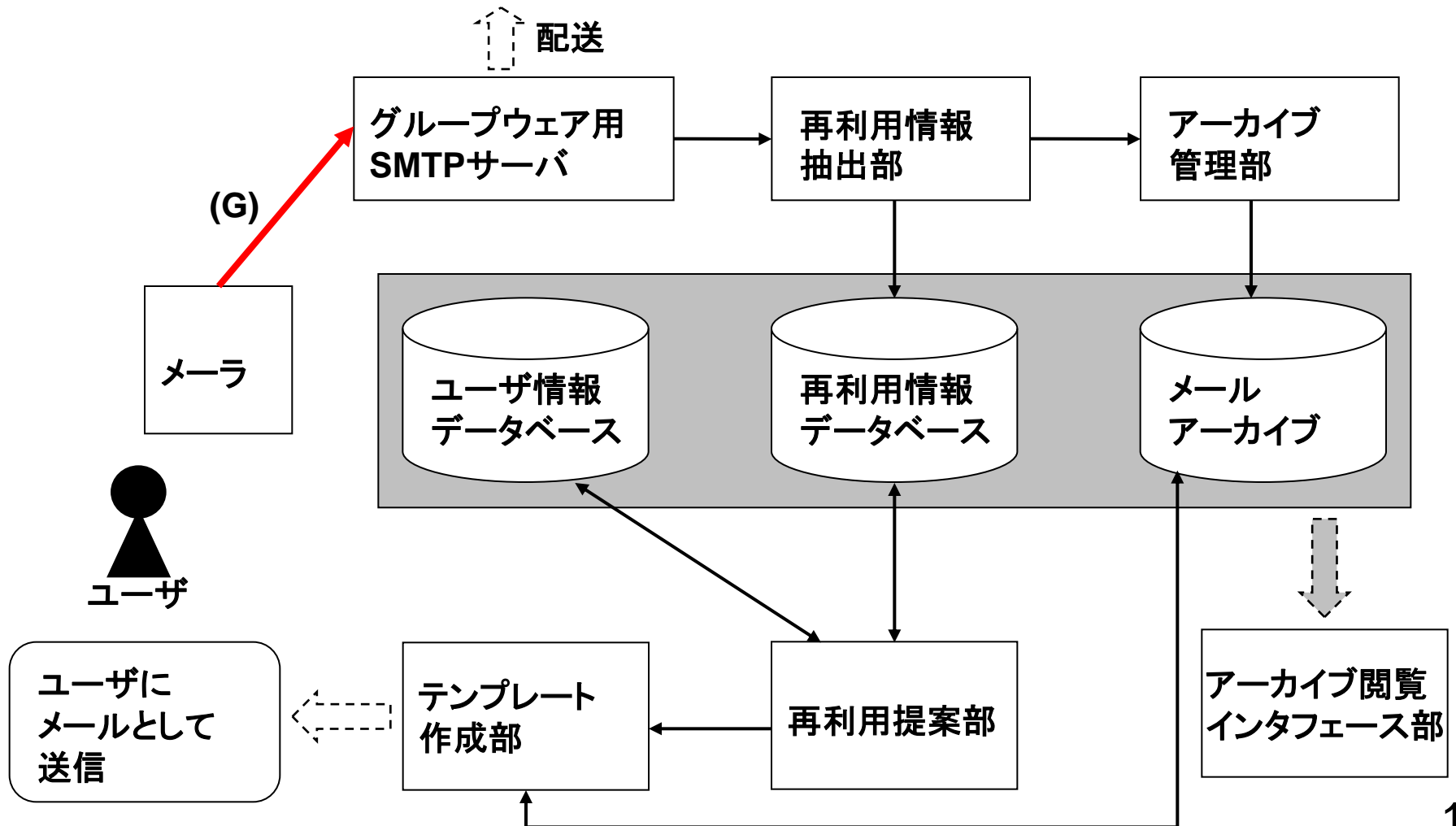
システムの設計

(1) メール再利用の提案



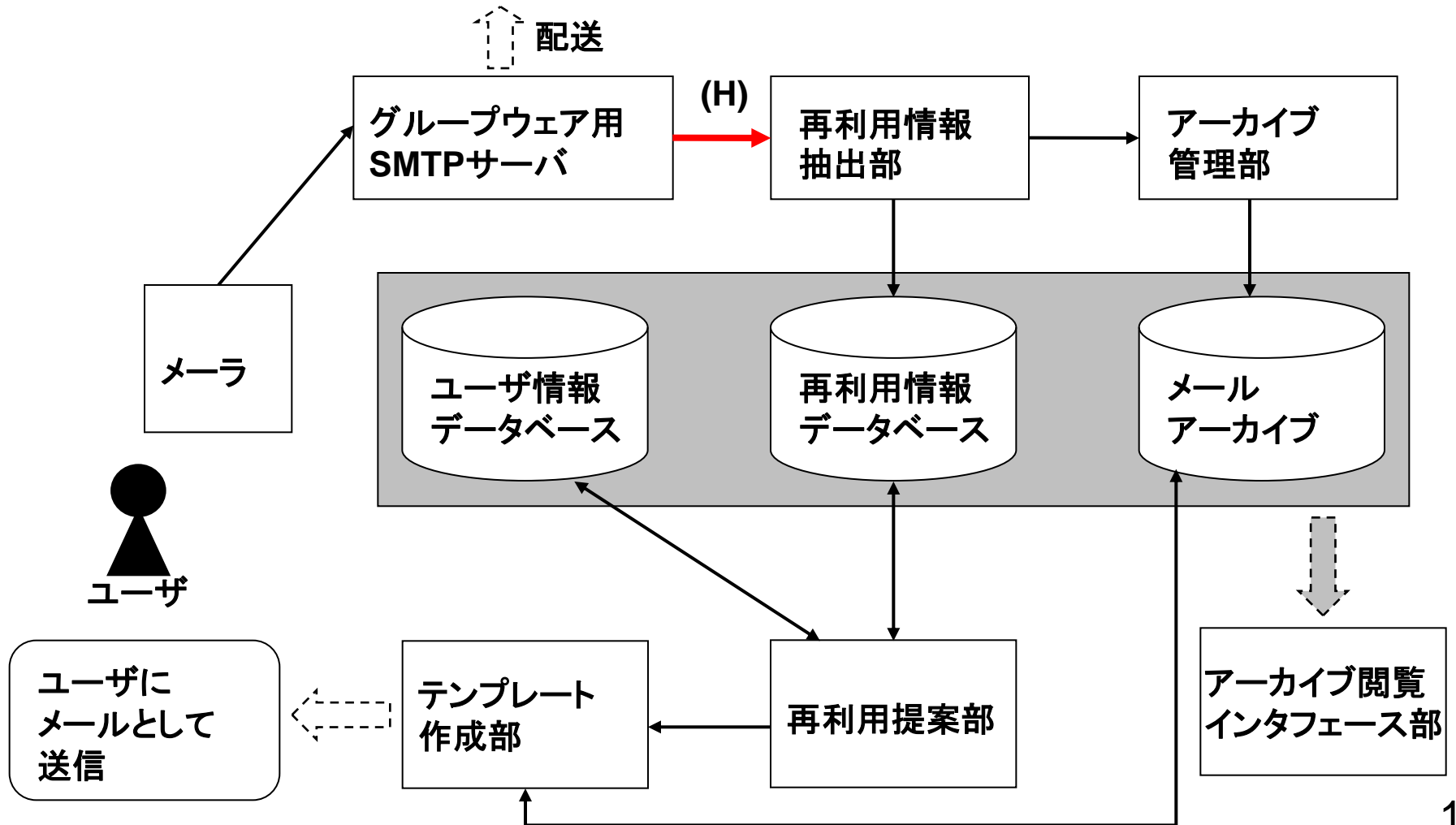
システムの設計

(2) メール作成支援



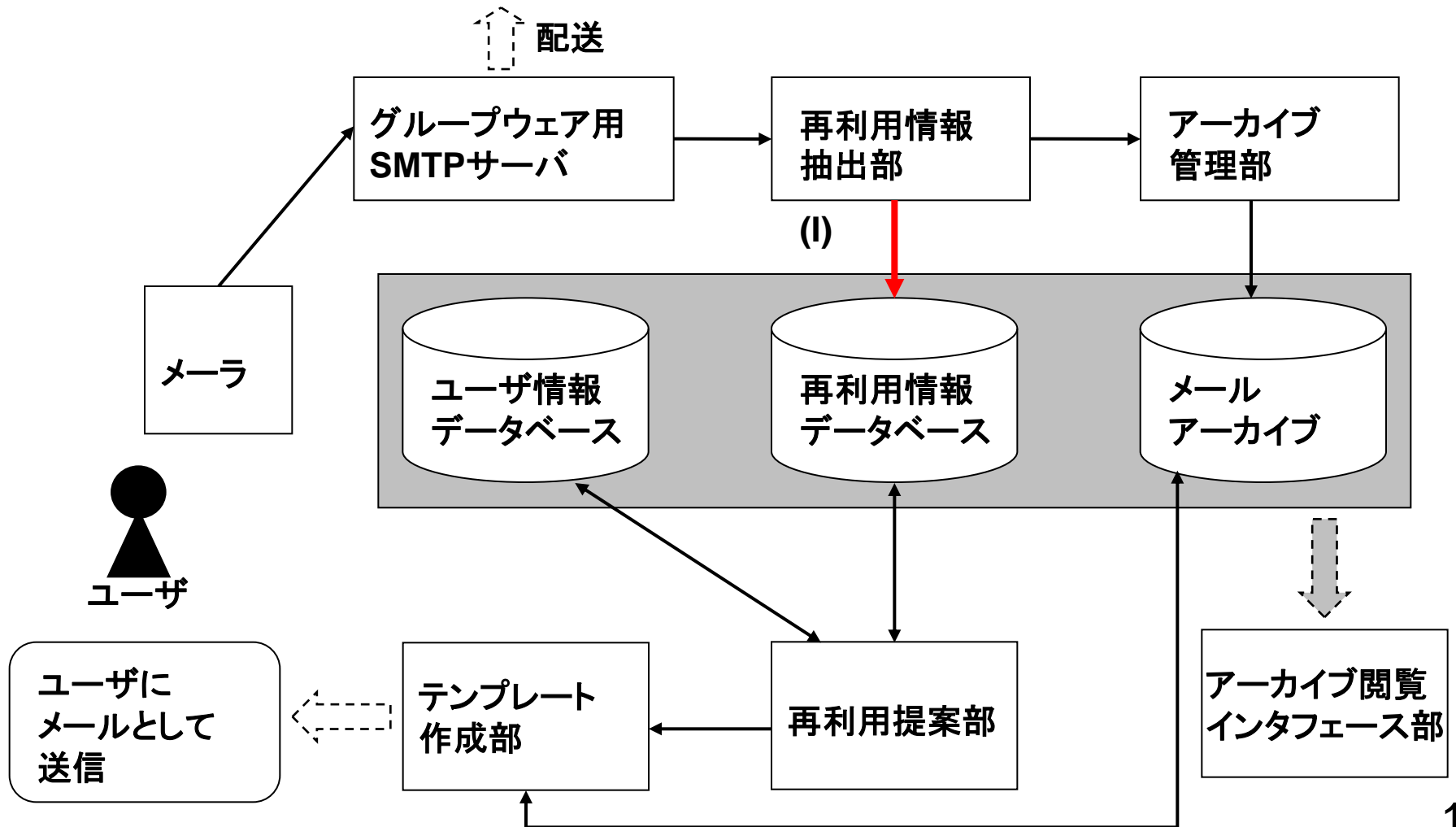
システムの設計

(2) メール作成支援



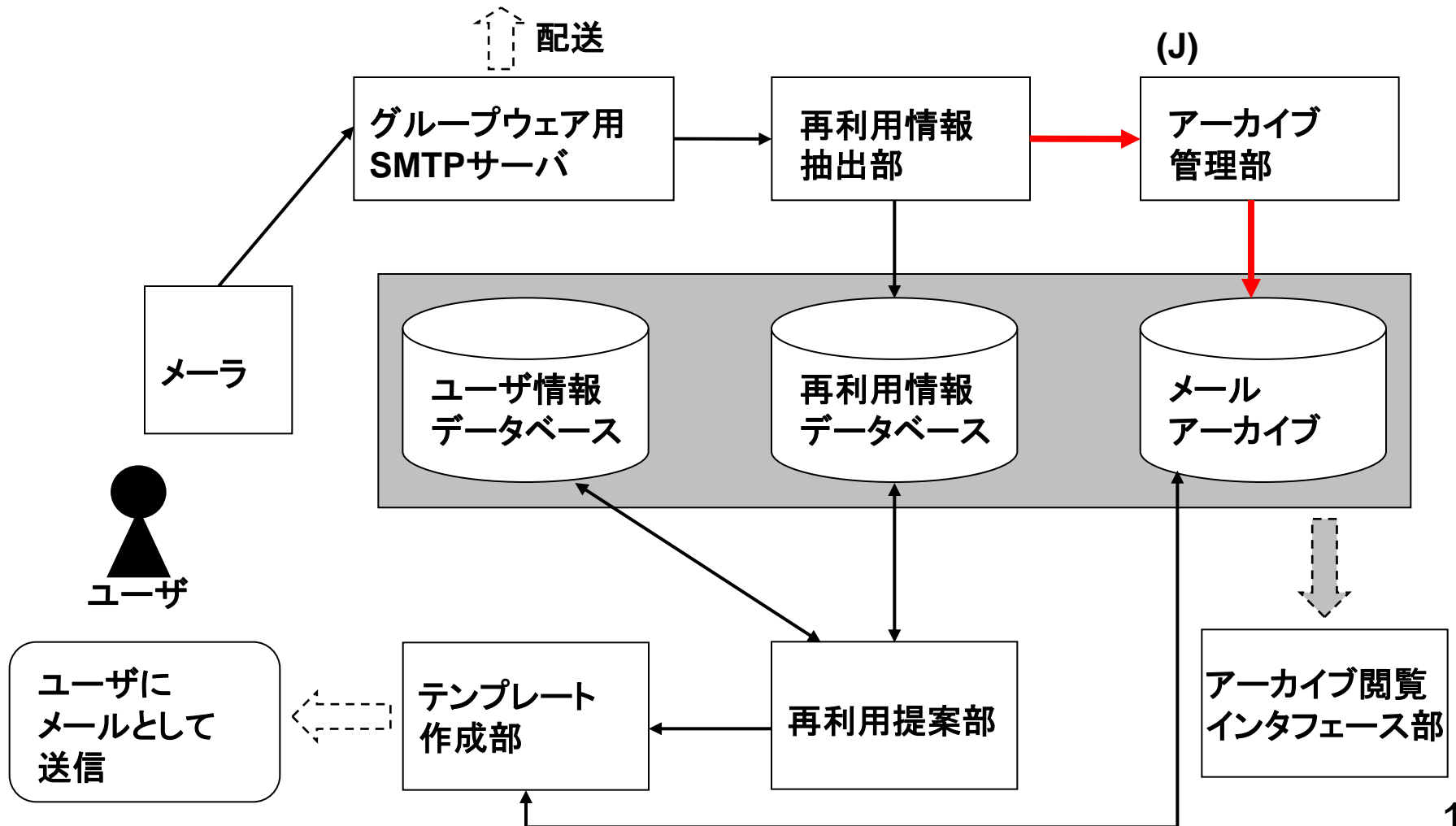
システムの設計

(2) メール作成支援



システムの設計

(2) メール作成支援



まとめ

<実績>

- (1) オフィスにおけるメール利用の現状調査
- (2) 課題の分析
- (3) 課題への対処
- (4) システム設計

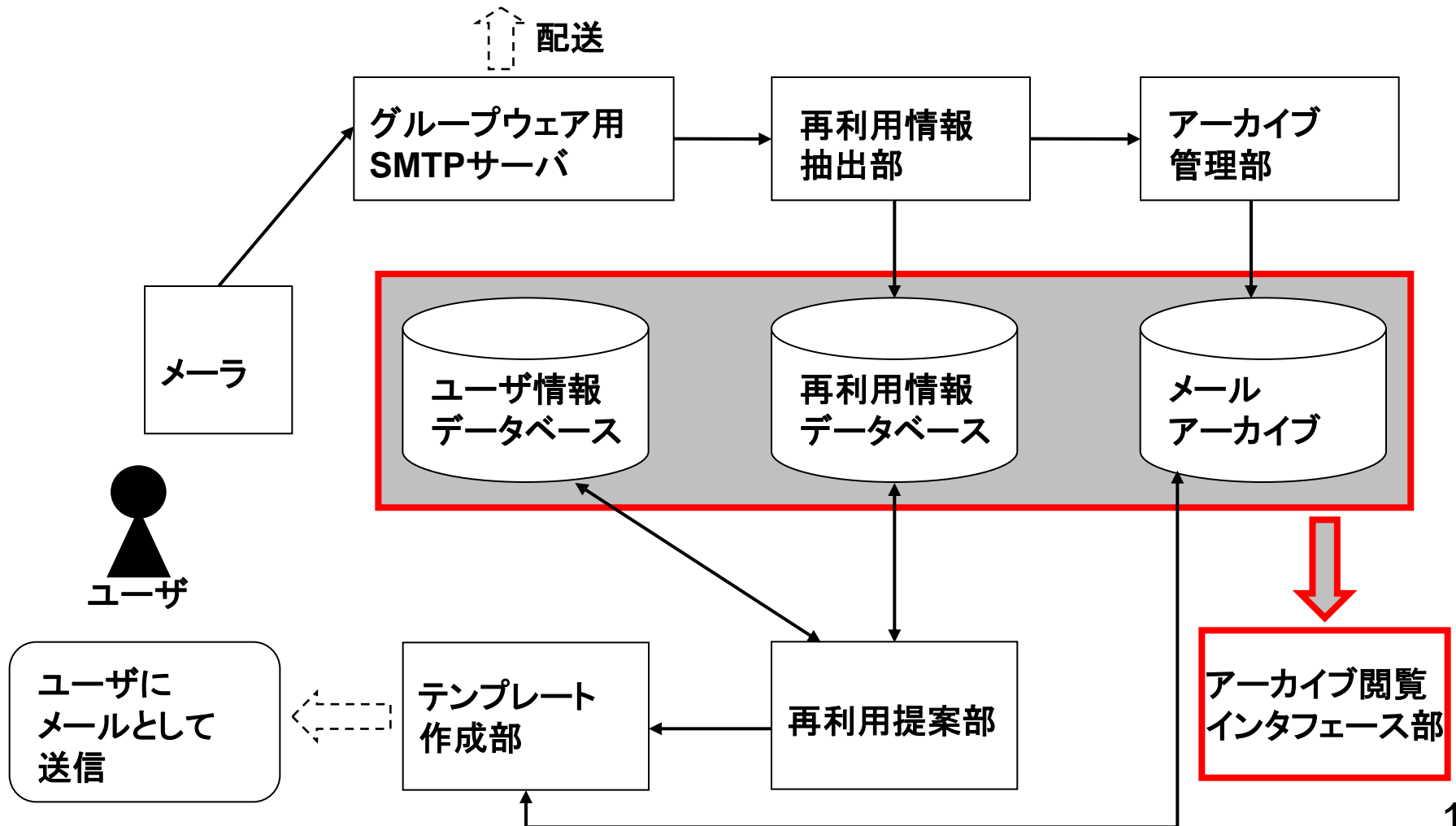
<残された課題>

システムの実装と評価

予備スライド

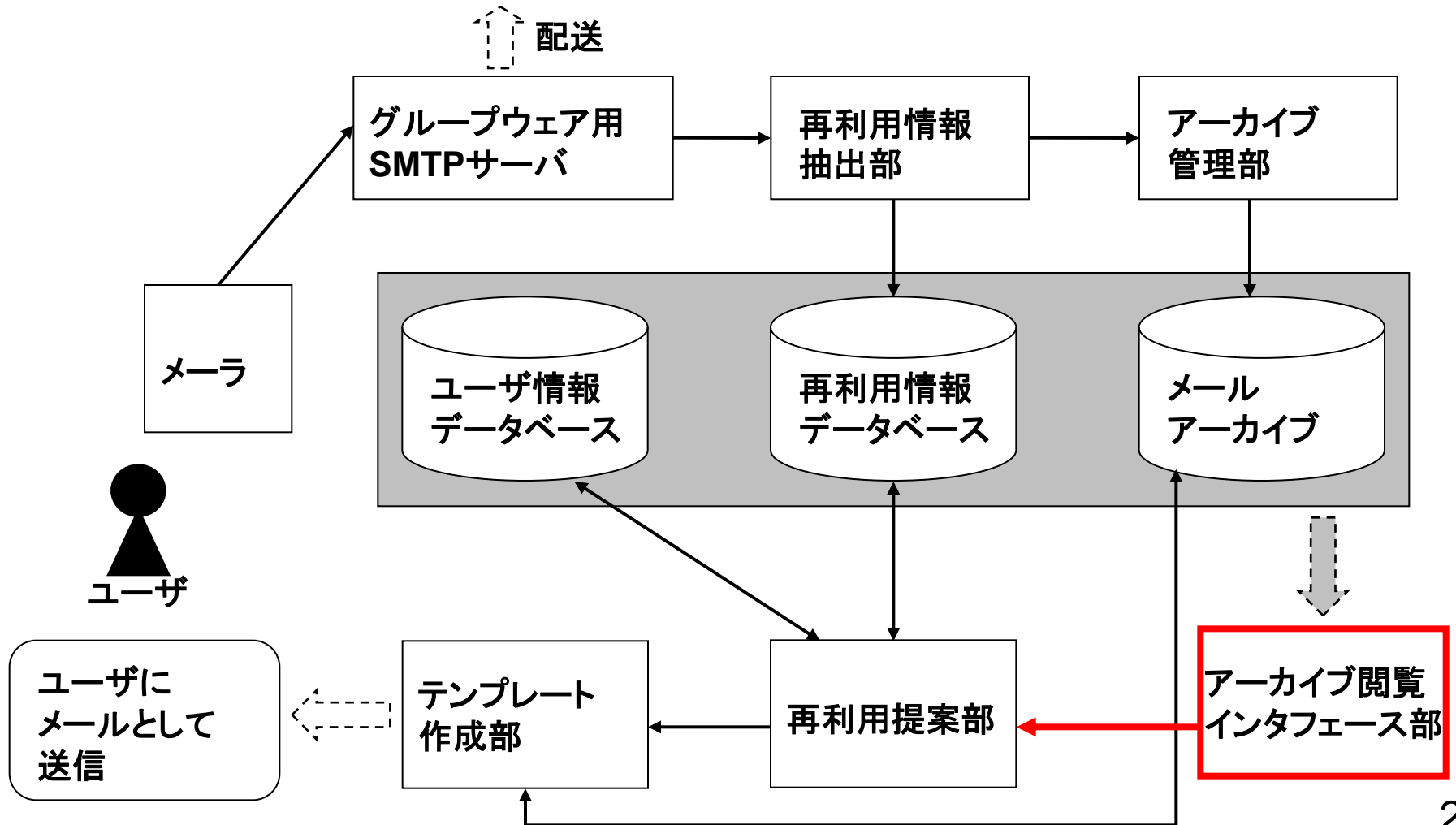
システムの設計

(3) メールアーカイブ閲覧



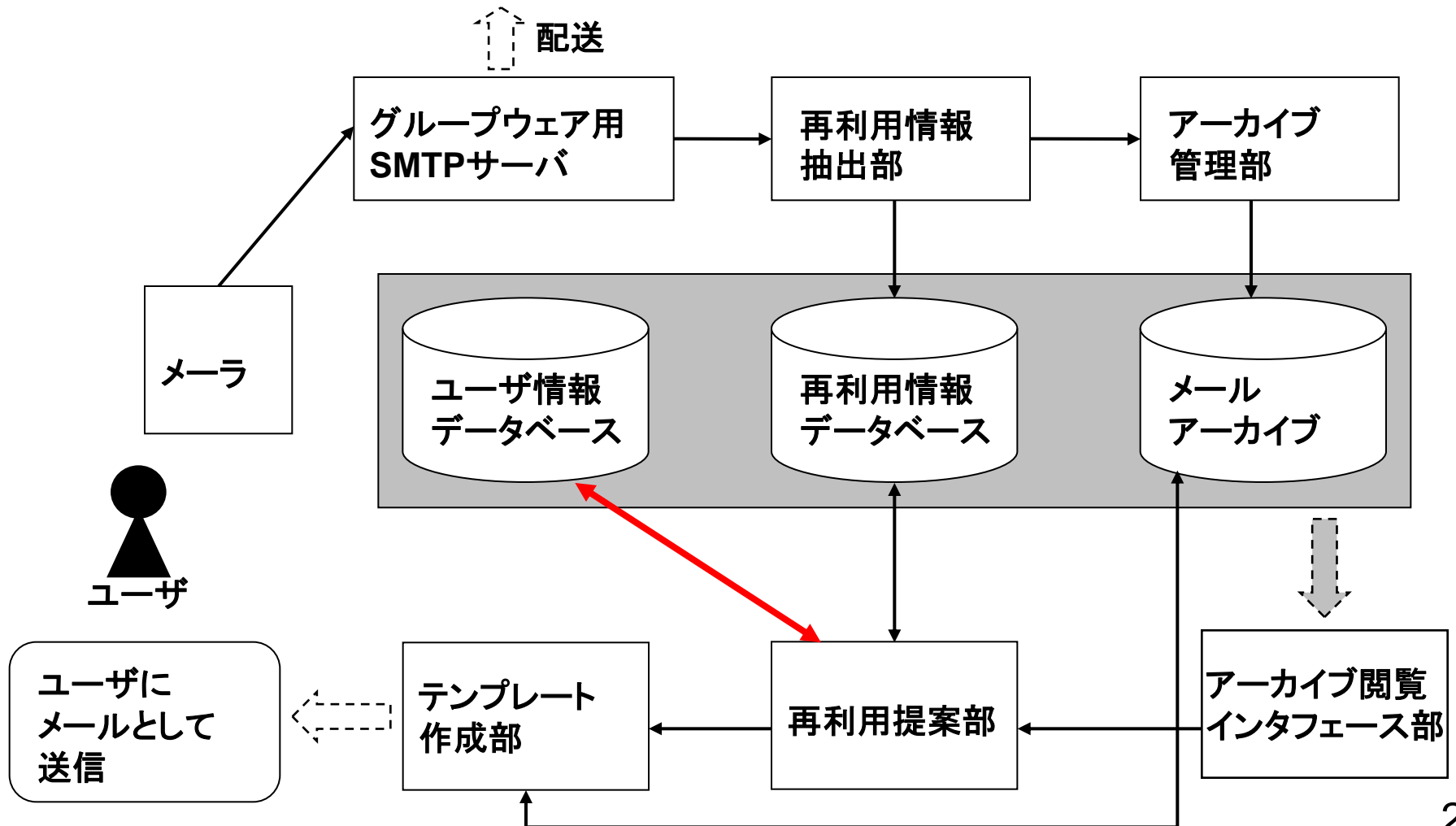
システムの設計

(4) 再利用情報付加



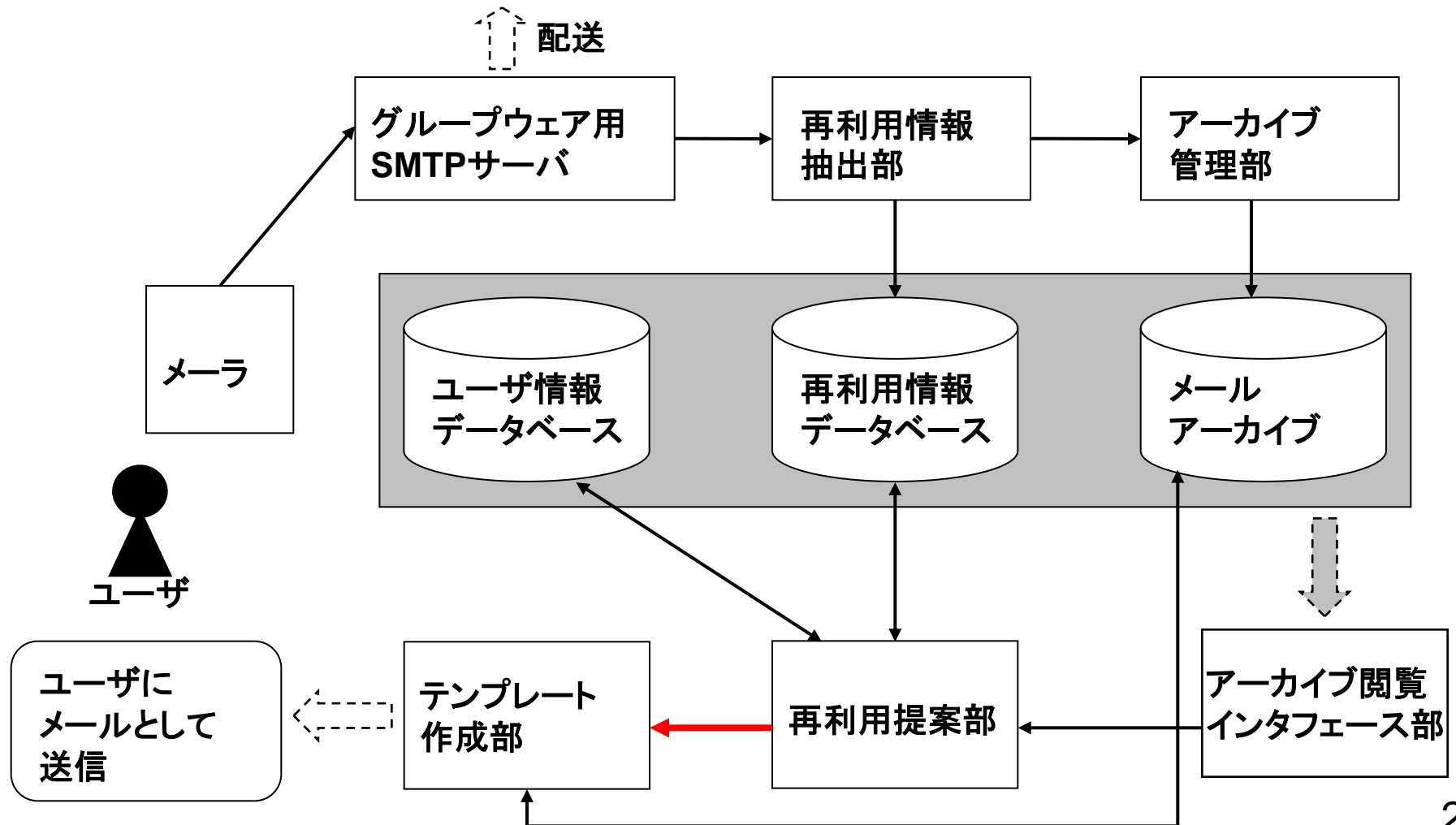
システムの設計

(4) 再利用情報付加



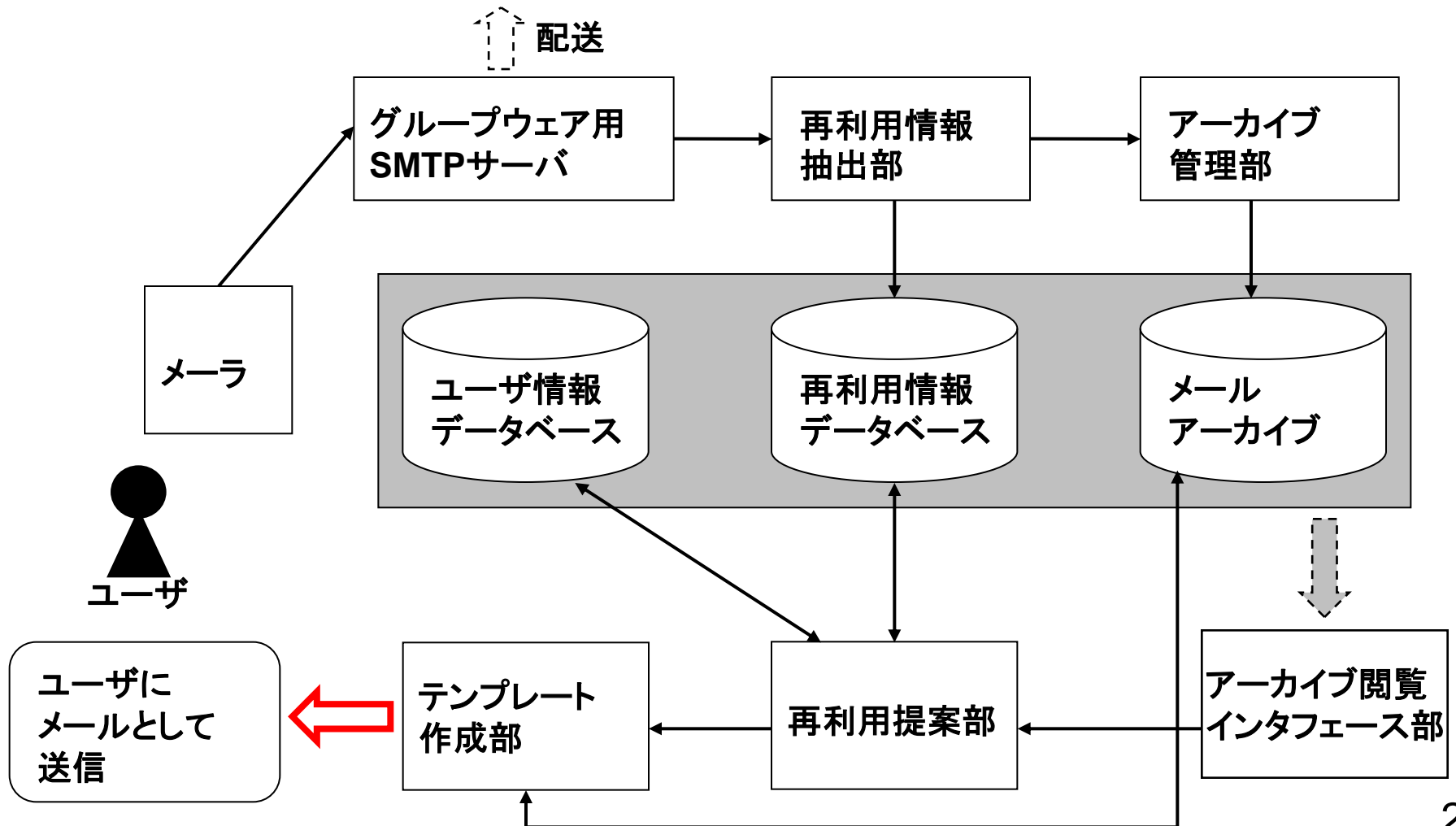
システムの設計

(4) 再利用情報付加



システムの設計

(4) 再利用情報付加



システムの設計

(1) メール再利用の提案

